

現代の若者が「美大」を選択する要因

——19・20世紀日本における美術家との比較・考察

現代では、美術に関する仕事で多くの人々が活動・活躍しており、画家やグラフィックデザイナー・アニメーター・イラストレーター等様々な職種が存在している。過去から現在にかけて、日本だけでも数えきれないほどの美術家が活躍してきた。彼らの多くは美術大学や専門学校を卒業し、美術について学んできた人が殆どである。（ここでデータを示す）しかしながら彼らは一体いつ、どこで、どのようにして美術の道に進もうと思ったのか。また、主にどういったものや環境に影響を受けて美術に触れたのか、その契機はなかなか明るみに出することは少ない。現在はテレビ、インターネット、それを閲覧出来るデバイス、美術館、移動手段、本の入手し易さなどが発達した時代である。そのため、美術に触れる機会が過去よりも多いのではないかと、また過去の美術家を知る機会も増え、そうした人物の影響も受けやすいのではないかと考える。従って、いくつか過去とは違ったきっかけが得られるのではないだろうか。

そこで本稿では、美術に関わる多くの人びとが、一体いつ、どこで、どのようにして美術の道に進もうと思ったのか。また、主にどのようなものや環境に影響を受けてきたのかについて明らかにしていく。

本研究では日本の19・20世紀に活躍した美術家と、現代の美大生に焦点を置き調査を行った。調査方法としては、はじめに過去の美術家について本などを用いてプロフィールをまとめ、リストを作成した。その後リストをもとに、5名の美術大学生または卒業生にインタビューを行った。

調査結果から過去の美術家と現代の美大生の比較を行ったところ、家庭や周辺環境、幼少期に触れたコンテンツ、卒業後のキャリアなど様々な点で多くの共通点や相違点が見られる結果となった。このように時代を追うごとに美術と若者達の関わりは常に変化している。今後、美術が発展していく中でこうした「きっかけ」にどのような変化が表れていくのか注目していきたい。